



Since 1972.2.24

帯広西ロータリークラブ

会報

THE ROTARY CLUB OF OBIHIRO WEST
Weekly Report

<http://www.tokachi.co.jp/wrotary/>



9

 2007, SEPTEMBER
第1733回例会

平成19年9月20日



2007年9月 新世代のための月間



会 長	茨木 雅敏	広報委員長	奥 敏則
副 会 長	近藤 誠勝	広報副委員長	小甲 哲士
副 会 長	千葉 清孝	委 員	渡部 省一
幹 事	三野宮 功	委 員	久保 且佳
会 計	大沢 剛	委 員	田中 利昭
S A A	本田美喜男	委 員	北川 勝啓

会長報告

会長 茨木 雅敏



こんにちは。本日はRI第2500地区海田 司ガバナーをお迎えしての、公式訪問例会であります。海田ガバナーにおかれましては、9時30分からの会長・幹事会、その後10時30分よりの第三回クラブ協議会では、杉浦ガバナー補佐のご参加を頂きまして、西ロータリークラブの活動について、適切など指導を頂きました。

海田ガバナーは、「自然環境にロータリーを活かそう!!」と言うテーマで、2500地区の各クラブに、ロータリーの奉仕の心を自然環境の保護と育成に活かそうと強調されております。本日のプログラム中で、その思いをお聞かせ願えるのではと思います。

また今年度の地区目標では、例会出席の重要性和会員増強・退会防止、そしてロータリー財団・米山記念奨学会への協力をあげております。西クラブといたしまして、それらの目標に向けて各委員長中心とし、取り組んでいるところであります。例会出席と会員増強の重要性については、会員全員が充分理解し継続的な行動と実績を残していると自負しているところであります。

米山記念奨学会への特別寄付につきましては地区協議会の席上、ガバナーが示された一人平均7,000円以上の金額がすでに会員より寄せられていると米山記念奨学委員長より報告を受けております。しかしながらロータリー財団への寄付については、まだまだ不十分なところが多々あると感じております。8月北見で開催されました、ロータリー財団地区セミナーの内容等を充分検討し、種々の問題に取り組んで行きたいと思っております。

話は変わりますが、2週間後には北見で地区大会が開催されます。本年度も多くの会員のご登録をいただきました。本当にありがとうございます。詳しくは後ほど、三野宮幹事より報告があると思っておりますが、地区大会を大いに楽しんでいただきたいと思っておりますが、数年先への備えも忘れずに宜しくお願ひいたします。

ガバナーにおかれましては、本日まですでに51のクラブの公式訪問を終えているようでありますが、これからも健康に留意されまして、無事すべての公式訪問を終えられることをご祈念いたしたいと思っております。以上、会長報告といたします。

たいまつ宣言

この「たいまつ宣言」は創立30周年にあたり、西ロータリークラブの創立の心を知るところから発し、我々が未来へ向けての道標とするものである。たいまつのように我々の行く道を照らし、明るい未来へと導くものである。

- 1.我々は 垣根のない交流を目指し 友情の輪を拡げる
- 1.我々は 他に依存することなく 自らを発する
- 1.我々は 常に変革をもって 行動する
- 1.我々は 自己の研鑽の為に 真の奉仕を実践する
- 1.我々は 生涯現役であり 活動に引退はない

■出席状況報告

月/日	9/2	9/6	9/13	9/20
例 会	1730回	1731回	1732回	1733回
総会員数	72名	73名	73名	73名
計算に用いる 部員数	64名	65名	65名	65名
ホームクラブ出席	31名	51名	49名	52名
メールアップ済員	27名	10名	13名	11名
欠 席 者	7名	4名	3名	2名
出 席 率	89.23%	93.84%	95.38%	96.92%

■ニコニコ献金

9月13日 8,000円 累計 163,000円

■今月の主な行事

9月 2日 家族野遊会
6日 誕生・結婚祝
13日
20日 ガバナー公式訪問例会
27日 夜間例会



例会日/木曜日 12時30分~13時30分 例会場/北海道ホテル 帯広市西7条南19丁目1 (TEL 21-0001)
創立/1972年2月24日 事務局/帯広経済センタービル4階 TEL 25-7347 (直通) FAX 28-6033

点 鐘
開会宣言
ロータリーソング (我等の生業)
ゲスト紹介
RI第2500地区ガバナー 海田 司 様
" 第6分区分ガバナー補佐 杉浦 壽 様
" 地区副幹事 山崎 正 様
(会 食)

茨木雅敏会長
柳沢一元副SA

茨木雅敏会長



茨木雅敏会長
三野宮功幹事



会長報告
会務報告

- ①帯広南RC、9月24日(明)振替休日のため休会と致します。
- ②帯広北RC、夜間例会開催のご案内
日 時 平成19年9月21日(金) 午後6時
場 所 ホテル日航ノースランド帯広
- ③【帯広西RC、夜間例会開催のご案内】
日 時 平成19年9月27日(内) 午後6時30分
場 所 北海道ホテル
担 当 会員増強委員会
【会員増強への情報ミーティング】
※アルコールの用意をしております。
お車でお越しの際はご注意ください。
④帯広南RC、夜間例会開催のご案内
日 時 平成19年10月15日(月) 午後6時
場 所 北海道ホテル

委員報告

ロータリー財団委員会 久保忠正委員長

ロータリー財団委員会よりお知らせいたします。国際ロータリーの財団委員会より、感謝をこめて大友広明会員へマールチポールハリスフェローのピンが届いています。



ニコニコ献金
茨木雅敏会長

親睦活動委員会 安原明彦委員長

皆様のご協力により、無事クラブ協議会を終了することが出来ました。有難うございました。クラブ協議会にオブザーバーとして参加させていただきました。有難うございました。

宮野 永会員

三野宮功会員

この度、第2500地区国際青少年交換委員会主催の交換留学生のためのオリエンテーションと報告会をJICAで行いました。また、明日留学生の向かいへ成田に行ってきました。

山田倫一郎会員

前回例会の社会奉仕委員会によるゲスト卓話、無事終了いたしました。有難うございました。

横田幸宏会員

先日のゴルフコンペで真ん中賞をいただきました。ご同僚いただきました方、有難うございました。

川上哲平会員

十勝シニア選抜選手権で、6度目のエージシュートを達成いたしました。アウト32、イン36、トータル68でした。また、河西十二郎杯において、シニア部のバスグロでした。有難うございました。

プログラム

RI第2500地区ガバナー 海田 司 様
【 講 演 】

皆様こんにちは。例会の貴重なお時間を頂戴いたしまして、お話をさせていただきます。深く感謝を申し上げます次第です。私この度、1月28日から2月3日までの1週間、アメリカ南部カリフォルニア州サンディエゴで開催されました国際協議会に出席させていただきました。530の地区から参加されましたエレクトの一員として、大変恵まれた環境の中で研修を受けてまいりました。RI会長を始め役員の方、そして世界各地のエレクトの方とお会いできましたことは、大変貴重な経験でした。ひとえに皆様の御厚情の賜物と感謝申し上げます。また、皆様から、120万人の会員に共通する1本の強力な糸が存在するとすれば、分かち合いという名で出来た糸ですとウィルキンソンRI会長が語りました。ロータリーとは何か。最古の国際奉仕クラブで、その120万人の会員が世界中で、それぞれの地域社会を改善するために、努力している。3万2千余のクラブが何となくの役に立ちたいと願い、毎週例会を開催しています。そして、日々何万件も有益で創造的でありとあらゆるプロジェクトを実施しています。私たち全員が世界を変えるためにベストを尽くしています。なかなか聞かぬ答えがよい回答ではないでしょうか。しかし、何か欠けているような気がいたします。これではまだロータリーの正体が明らかではありません。ここにおられます皆様に取りまして、また私個人にとって、ロータリーとは何か。ロータリーとは魔力に匹敵するものです。ロータリーの魔力とは、普通の人々ですばらしい仕事をやり遂げられることなのであります。普通やり遂げられるなどは全く想像も出来ないような数々のことをやらせてしまう、それがロータリーなのであります。名も知らぬ国々のよき友を得ることが出来たのがロータリーのお陰でございます。また、皆様のおかげでこのようにお話を出来ますことも、すべてロータリーが可能にしてくれたことでございます。ロータリーのお陰で、家族と仕事と地域社会を主軸として暮らしている皆様方や私の様な者が、日常生活の枠を超えて、それ以上の何かを求められる機会に恵まれます。ロータリーのお陰で、見知らぬ人々に対して心を開き、何千マイルも離れた地域に自分の地元と変わりぬ愛を注ぐような人間になれるのです。なぜならロータリーでは、だれかれの区別無く、すべての人類に向けられる人類愛に他ならないからであります。ロータリーは、その人類愛を表現し、分かち合う術を授けてくれるからなのです。私たちは、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、そして国際奉仕を通じて分かち合います。また私たちは、会員増強を通じて、分かち合います。どんなに多くの業績を数え上げたとところで、新しい会員を増やし、既存会員を維持することが出来なければ、ロータリーは生き残れません。新会員を失くしては、何を語れません。なぜなら私たちの活動がどんなに立派で尊いものであっても、新しい会員がいなければ、数十年のうちに消滅してしまうからであります。昨年度、ボイドRI会長の強調事項であります水保全、保険及び飢饉救済、識字率の向上などといったことを引き継いでまいりたいと存じます。きれいな水、健康と読み書きの能力が授けられ、多くの人々に自浄自立の道が開かれると思うからであります。ロータリー家族という強調事項も、互いを思いやり、助け合うことで、ロータ

理事会



リーが未永く存続し、意義ある活動を続けることが出来るのです。家族や仲間同士、地域社会、そして援助を受ける側の人々と接する際には、どうも親切心を示して頂きたいと存じます。お腹を空かした人に食事を持っていけば、お腹を満たすことは出来ますが、さらに食卓を共にするならば、その人の心も満たすことが出来るのではないのでしょうか。私たちは皆、ポリオプラスなど大規模な業績を誇りに思っています。しかし、友人のために用事を引き受けたり、隣人に手を貸したいといったような些細な行為も等しく大切であります。その様なやさやかな行為をワーズワースは、詩の中で次のように歌っています。「良き人の人生の中で、最良たるもの、それは誰も覚えていないような名も無きやさやかな親切と愛の行為」。私たちを感動させるロータリーの親切心と愛は、理屈とはかけ離れたものであります。それは、公式や貸借対照表などでは表すことが出来ないものであります。愛と親切心こそがロータリーを可能にしていることでもあります。ロータリアンとして口先だけで人類愛を語るだけではありません。ロータリアンである私たちは、その愛を実践し、分かち合い、そして互いに助け合うのです。こういった理由から2007-2008RIテーマでありました「ROTARY SHARES」・「ロータリーは分かち合いの心」を発表されたのであります。思いやる気持ちが、ロータリーに分かち合いの心をもたらし、ニーズを知らばこそロータリーは分かち合い、超我の奉仕を心算すればこそロータリーに分かち合いの心が生まれるのであります。ロータリーにおける分かち合いとは、自分自身に不要になった事を施すことではありません。分かち合いとは、人の為に我を忘れて自らを奉げることであります。今年度皆様方一人一人にロータリーと分かち合えるものが何なのか、考えていただきたいと思えます。以上RIウィルキンソン会長2007-2008のテーマ「ROTARY SHARES」・「ロータリーは分かち合いの心」のご理解を深めていただければと思います。

次に、本年度の私の「自然環境にロータリーを活かそう」のテーマについてお話をさせていただきます。今年のカバナー方針といたしまして、「自然環境にロータリーを活かそう」と提言させていただいております。1927年のベルギーオステンドの国際大会から、ロータリーの奉仕は、クラブ奉仕・職業奉仕・社会奉仕・国際奉仕の4つの既実概念に御助言をいたしまして、ロータリーの4大奉仕として皆さんご存知の通りでございます。しかし、ロータリーの飽くなき奉仕哲学の追求は、理論が先行したり実践が先行して、後に奉仕理論が確立したり、幾多の試行錯誤を重ねながら、新しい職業分野を開拓していくのであります。このことは奉仕理論の正当性を検証するものは奉仕の実践であるという行動哲学であるロータリーにとって、当然のことなのであります。奉仕哲学の持つ普遍性などは、新しい奉仕分野の青少年奉仕や世界社会奉仕分野を開拓し、1963-1964年のカールPミラー会長は、「Meeting ROTARY challenge in the space age.」と、地球規模宇宙規模でのロータリーの奉仕の存在を示唆したのであります。「自然環境にロータリーを活かそう」は、4大奉仕の範疇と必ずしも一致するものではないかもしれませんが、ロータリアンの奉仕の心に基づく行動が奉仕の実践であることとすれば、地球規模の環境破壊が人類の将来を危殆にさらすことが明白である今日、ロータリーの活動の内に自然環境問題を取り上げる因縁は、十分成熟していると思われる。どうぞご理解いただきまして、ご提言・ご協力を賜りますようお願いいたします。

次のような報道がありました。去る4月23日、前安倍首相は、北海道は世界に誇るべき自然が有り、来年の主要国首脳会議サミットは、環境問題が大きなテーマになると言っております。美しい国を世界に示す上で最適であるとして北海道洞爺湖町で開催することを決めています。今世界で自然環境に対する関心が高まりを見せていますが、地球温暖化が進み、生物種も減り続けています。自然は人を育て、環境は人を育むと言われ、人は今アメニティを追い求め、心無き利潤の追求に明け暮れようとし、気がつけば、背後にかけがえの無い地球破壊と瓦礫の山です。私どもは雄大な北海道に立つと、澄み切った空、雄大な山々、紺碧の海、そして湖や森、豊かな自然が広がっています。すべてが人工的資源ではなく、自然そのものです。そして、RI2500地区は、8つの分区分、68のクラブの皆様が、自然資産と環境をお持ちです。私は、北海道以外で合合がある度に、癒しが必要な方はどうぞ自然豊かな北海道へお越しくださいと呼びかけておりますが、大方の賛同を頂いております。われわれ人間は、自分で生きていくのではなく、自然に生かされているという事を自覚して、生きる原点として、自然を大切に、自然保護に取り組み、自然との共生が如何に大切かを再度認識し、その取り組みに力を入れていかなければならないのです。この豊かな北海道の土地は、私たちが想像を絶する幾多の困難を乗り越えて切り開き、育て、今に残していただいた開拓者の賜物です。開拓者の血が入ってわずか100年、歴史は浅いですが自然とともに生きた先住民と開拓者の知恵は、北海道独特の文化を生んでまいりました。寛容の心と自然との共生がそれであり、そして、全国から故郷の異なる人たちが集まり、開拓が始まりましただけに、他者を思いやる心の豊かさを持っていたことも大きな特徴ではなからうかと思えます。そのDNAは、今に受け継がれております。そして、その心はロータリーの心に相通じるところを持っていないのでしょうか。早くからロータリーは、北海道の地に根づく素地ともなっているのではないかと思います。私たちはクラブ奉仕を通じて、分かち合います。私たちロータリアンは、毎週1回の例会に出席させていただいて、親睦のうちに地域社会の異業種の方々との異なる発想に知恵を頂き、互いに互いの自己を確かめさせていただいております。受容の心を持って、己の足らざるを他のロータリアンから学ばせていただき、そういった過程の中で、会話の心を持って、他人の事を思いやり、その心が奉仕の心であり、その心を持って地域社会に千差万別の事象に適應させていただき、奉仕の実践に努めています。このことを1927年のRI理事会は、ロータリアンの行動パターンから実践形態をクラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕の4分類の表現に当てはめ、ロータリーの綱領に即し、ロータリーのロータリーたる故は、ロータリアンの自己研鑽をもってする職業奉仕の実践にありという理論が確立するにいたった。ロータリーの親睦は、単に感性的なものにとどまらず、精神的な親睦であり、他の奉仕団体には無いロータリー独自のものです。ロータリアンは、クラブにある種の目的意識を持って出席するとともに、例会出席の精神的な重要性についても、今一度考えを新たにしてまいりたいと存じます。最後に、われわれ人間は、自然の空気を吸い、水を利用して自然により生かされている事実を知り、謙虚につつましく生きていかなければと思います。自然から頂戴し、自然から学ばせていただきながら、ロータリーの奉仕の心を持ち、奉仕の実践の1つの切り口として、自然環境の保護育成に努め、どうぞ各分区分、クラブ、ロータリアン一人一人が、地域社会に積極的に働きかけ、知恵を出し、まちおこし・地域おこしにリーダーシップを取っていただきたいと思えます。最後に私の好きな標語をご紹介します。「入りて学び、出でて奉仕せよ」「Enter to learn, Go forth to serve.」有難うございました。

開会宣言
点 鐘

柳沢一元副SA
茨木雅敏会長